

サムネイルについて

こんにちは、松下です。

今回は、効果的なサムネイルの作り方について、解説していきます。

このビデオを見ることで、あなたの動画のクリック率は、どんどん上がるようになり、たくさんのアクセスを集めることができるようになります。

YouTubeでアクセスを集めるうえで、もっとも大事な要素のひとつがサムネイルです。

サムネイルを極めるものが、YouTubeを極めると言っても過言ではありません。

いくらビデオの内容が良かったとしても、サムネイルの内容が良くなかったら、大量にアクセスを集めることはできないからです。

なので、あなたがこれからYouTubeで、動画をバンバンアップしていく際には、必ず、サムネイルをしっかりと工夫してください。

このビデオでは、「効果的なサムネイルとは具体的に何なのか？」

「どのようにすれば、効果的なサムネイルを作ることができるのか？」を、具体的に、ステップバイステップで解説していきます。

それでは、張り切って参りましょう！

まず、アランヒルさんのチャンネルを見てみましょう。

このチャンネルで、人気の動画をクリックして並び替えをします。

これで、再生回数が多い順に並び変わりますが、どのようなサムネイルを使っているかをチェックしていきます。

すると、見ていただければ分かると思いますが、全体的に作り込まれたサムネイルが多いことが分かります。

18個ある動画のうち、何も工夫していないサムネイルが5つ、残りの13個は全てサムネイルに工夫が入っています。

そして逆に、下の方の再生回数があまり伸びていない動画を見てみると、18個中、17個が、何も工夫をしていなかったものということがわかります。

このことから分かると思いますが、YouTubeで成功するためには、サムネイルから目を背けることはできませんので、あなたがこ

これからYouTubeで動画をアップロードする際は、必ず、サムネイルを作れるように準備しておいてください。

では、具体的に、どのようなサムネイルが効果的かという話をしていきますが、効果的なサムネイルには、次の6つのポイントがあります。

まず、1つ目は、人物のサムネイルを使う場合、感情のこもったアップの顔を使うと、クリック率が高まるというデータがあります。無表情のものではなく、なるべく、感情的なものを使うと効果的です。

日本でNo1Youtuberと言われている、ヒカキンさんのチャンネルを見てみると、ほとんどが、表情のある顔を使っています。

表情のある顔は、なるべくアップにして、最低でも画像の1/3以上にしたほうが効果的のようです。

次に2つ目ですが、背景の工夫もしてください。

蛍光色がバックの背景にあるほうが、クリック率が高まる傾向にあります。

次に3つ目ですが、文字もできるだけ入れたほうが良いです。

ただし、実際にYouTubeで表示されるサムネイルは、あまり大きくないので、小さい文字をごちゃごちゃと入れてしまうと、ほとんど読めませんので、大きな文字、10文字くらいを目安にして入れてください。

文字を入れる場合は、とにかく画面いっぱい、大きい文字を使うように心がけてください。

さらに、右下は再生時間が表示されて隠れてしまいますので、できるだけ空けるようにしてください。

次に4つ目ですが、文字には必ずフチを付けてください。

フチを付けることで、インパクトを持たせることができますので、できるだけ文字の枠には装飾をつけて、目立たせるようにしてください。

次に5つ目ですが、文字の内容は、思わずクリックしてしまうような、興味深いものにしてください。

雑誌や新聞などを参考にして、興味をそそるような、そんな見出しを考えてください。

次に6つ目ですが、魅力的な女性の写真を入れると、クリック率が大幅にアップします。

YouTubeは、男性の視聴者が多いので、魅力的な女性の写真をサムネイルに使うと、クリック率が大幅にアップするというデータがあります。

ただし、女性の写真を使う場合、象徴権の問題が発生する場合がありますので、必ず、フリー画像などで検索したものを使うようにしてください。

それと、魅力的な女性はクリック率が上がるからと言って、肌の露出が多い写真を使うと、規約違反でペナルティーを受ける場合がありますので、やり過ぎないように気をつけてください。

以上が6つのサムネイルのポイントになりますが、いかがだったでしょうか？

こうしたサムネイルはGIMPというソフトを使うことで、簡単に作

ることができます。

サムネイルの具体的な作り方に関しては、WindowsとMacとでは、若干作り方が異なりますので、下に補足ビデオを用意しておきましたので、ぜひ参考にしてください。

というわけで、今回は以上になります。

最後までご視聴いただき、ありがとうございました。